

# 航 跡

—26—

早稲田ヨットクラブ

平成3年2月発行

発行者・事務局長 木村光成

編集・広報室 米田晴二

石田晋也

## 祝 W-K・ヨットレース 50回!!

昭和10年に始まった早稲田・慶応の対抗ヨットレースは平成2年6月のレースで第50回を迎えました。

これを記念して11月7日夜、東銀座三笠会館にて両チームOB、学生による大祝賀会が開催されました。

海の上では常に激しい闘志でしのぎをけずりあいよくもめている帆友ですが、陸に上れば実に仲の良い親友ばかり。

早稲田ヨット部は始め慶応に大変お世話になり今の品川辺り即ち三田のボート屋さん沖で慶応のヨットを借りて練習を始めた歴史があります。

スポーツ界でこれだけ続いているレースは数少ない。

今夜参集した各年代の両校OBたちは、このレースに青春を燃焼させたさまざまな思い出を胸に秘め友情を爆発させた。

慶応側の歌唱指導による回航の歌を全員で合唱、夜のふけるのを忘れました。



この会の実現の為、早稲田側は舟岡(31)、土肥(36)、大(40)、市井(59)、慶応側は鈴木(31)、牧原(35)、石橋(42)、斉藤(52)の諸君が汗を流していただきました。

早慶戦の通常成績22勝27敗1引分。

この伝統ある対抗レースが益々レベル高く永く続くことを願い全員で力をつくしたい。

## ワセダ ヨットクラブ——1990——

- 2・11. 現役・合宿所開き
- 3・1. クラブ・総会。於水楽クラブ
- 6・3～4. 10大学ヨットクラブレース。於諏訪湖 スナイプ2 シーホッパー1 (各3レース)
- 8・11～15. 大学実技講習を支援
- 15～20. //
- 9・15. オクスフォード大学チーム歓迎帆走と歓迎パーティー
- 10・13～14 4大学OBレース。於熱海 シカールトッパー OPディンギー
- 11・7 早慶ヨット定期戦50回記念祝賀会。於三笠会館 東銀座

(理事会) 毎月第3木曜日 永楽クラブにて開催。熱心に討議したり、ウツカしたりした。

尚、永楽クラブは 今回ビル改築の為隣の野村ビル4階に移った。ご注意下さい。電話番号は 03-3231-6439

### 平成三年度 学生春期合宿日程

2月10日(日)～2月17日(日)、2月20日(木)～2月25日(月)、2月28日(木)～3月5日(火)、3月9日(土)～3月12日(火)、3月14日(木)～3月18日(月)、3月20日(水)～3月26日(火)、3月29日(金)～3月31日(日)、4月1日より新人勧誘。

# オクスフォード大学来日

## —太平洋に憧れて—

(9月17日付 読売新聞)

国際親善ツアーで来日した英国オクスフォード大ヨット部と早大ヨット部の対抗レースが16日神奈川県三浦市の三戸浜沖で行われた。

オ大ヨット部一行は、アンソニー・ランチ監督以下11人。ヨーロッパ指折りの強剛で数年前から毎年親善ツアーを実施している。今年は8月末からインド・香港を経て初めて日本へ。琵琶湖で同志社大と戦った後、湘南の海に姿を見せた。

あいにくの雨について、両大三艇づつのディンギーヨットが三時間余りの熱戦を展開。小差でオ大の勝利となったが、メンバーは「太平洋では初めてのレース。日本の海は海岸線が美しい。大学ヨットのレベルも高い」と健闘をたのんでいた。

### (前日の歓迎会)

気圧の谷の通過で、9月15日は、風波激しく小型艇レースは中止。三戸浜の小島合宿所で両チームのユールの交換に始まるセレモニーを催した後、全員油壺へ移動。土肥OBのクルーザー『だぼはぜ』にオクスフォードの

メンバーに乗ってもらい相模湾上を機走した。西を指して「こっちがチャイナか?ときく。イエスときいて、「すると「こっちがハワイか」という調子。彼らが太平洋で走りたいという気持ちが良く判った。

大勢のOBとオクスフォードの応援団とスポンサーのアクアスキュータム関係者ら全員で歓迎パーティ。パーベキューと豊富なアルコールで、OB・現役入り乱れての国際親善となった。ビールを古いディンギーに氷と一緒にに入れて冷やすのを見て『VERY GOOD IDEA』と感心していたが、その氷の水の中に人間を投げ込む乱暴なマナーには驚いたというより呆れていた。

17日以降は学生たちが東京都内を案内、観光。分宿によるホーム・ステイでもてなした。

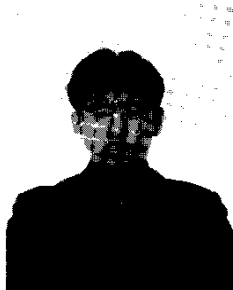
秋の集いを兼ねて、大変良いパーティが出来た。『OBの方々の協力、歓待に大変喜んで帰った』とアクアスキュータム社の方からお礼言上がりました。

このオ大来日に関しては石川光男OBに大変ご苦労いただきました。感謝申し上げます。

## 90年度回顧

本年度主将 諏訪 康弘

寒さ厳しい二月十一日。合宿所開きを催した際、今年是一年生から四年生まで全員の総力によって全日本インカレ優勝を目指そうと部員一同決意をあらたにし、合宿に入りました。部訓もこれにちなみ、「和」とし部員の「和」をもってインカレを制す、これをスローガンに練習に励みました。



長いシーズンの間にはチームの調子が上らないこともありましたが部員一人一人が、各々の持ち場を確実にこなすことによって難局を乗り切って参りました。

全日本インカレ最終日。早稲田は総合三位(470 1位 スナイプ 6位)と、優勝を目前にして、最終レースにいどみましたが、結果は総合二位(470 4位 スナイプ 3位)に終わりました。

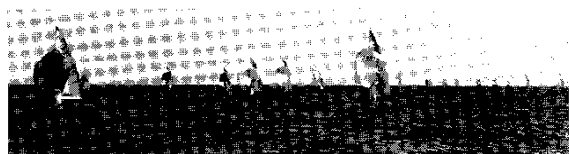
この結果は、良い成績であるように思いますが、チームとして優勝を目指している以上この成績に満足する訳にはいきません。来年はこの成績から自分達に一体何が足りないのか真剣に考えて、目標にいどんでもらいたいものです。

最後になりましたが、多大なる御支援御指導を賜りましたOBの皆様へ厚く御礼を申し上げますと共に新しくOBの仲間入りする卒業上期10名全員、後輩の指導に全力を尽くす所存です。皆様大変有難うございました。



## 現役 of 戦績 1990

	470	スナイプ	総合
春季・関東インカレ (4月)	3位	7位	6位
〃 東京六大学戦 (5月)	1位	1位	1位
早慶戦 (6月)	勝	負	勝
早同戦 (7月)	負	勝	負
オクスフォード戦 (9月)	—	負	—
三大戦 (日・中) (9月)	2位	2位	2位
秋季東京六大学戦 (9月)	1位	1位	1位
〃 関東インカレ (10月)	1位	8位	3位
全日本インカレ (11月)	4位	3位	3位



写真は二枚共、全日本インカレ

## 三戸浜⇒岩井回航で早風を偲ぶ

8月11日 9:00 油壺出港。岩井・下陰居で開かれる大学実技ヨット講習の為、稲龍を回航するメンバーにロートルOB2名。安藤一大・木田晴二（昭和29年組）が参加した。

スナイプ・470は陸送し、前日のうちに現地到着済と確認している。油壺沖で、レスキュー紺碧と合流す。城ヶ島内側三崎港を通過する迄は機走。東京湾を望んで帆走に入る。風SW5~6 波ウネリ少々。稲龍が先導、紺碧フォローす。

東京湾口の中央部に至る。前方1時半の方向に館山が見える。

「では 始めます」と学生 全員起立合唱。

### 「あゝ、早風号」

風 ひょうひょうと雲低き 十一月の相模灘 早稲田クルーの六人が 海に賭けたる意気昂し ブロー ドリフト 視界ゼロ あゝ早風は闘えり——。

今 その恨むべき 初島レースの最終コースの現場の海上近くに28年後輩たちが伝統行事として唄ってくれている—— 葉山 館山 伊豆の海 あゝ早風と鍛えたり。

早風の進水から初期の帆走を実体験したOBが、このいることを現役は特に何も感じていないだろう。

六人の顔々々が 次々と目前に浮ぶ。風はひときわ強まった様な。

一升ビンから 酒を注ぐ。

—— あの日の腫 微笑みに 菊を捧げて海を呼ぶ —— その歌の通りに大きな花束を海に投じた。

レスキュー紺碧の上でも学生諸君も黙禱。

ロートルOBは涙をこぼさぬ様に青空を仰ぐ。

私はこのコースを学生達と回航するのは始めてであった。予想していなかったこのセレモニーに本当に感激した。そうか毎年やってくれていたかんながなあ。ありがとう。

一人の学生が言う、「早風のこと 詳しく聞かせて下さい」。「泣かせること言うナ」。

いよいよ 危険水域。即ち本船航路に近づく。右遠方に船影。これがぐんぐん近づく。「船の横の型が見えたら船尾に向けて走ろう」と。やっと やりすごしたら次は左の方から来た。又々船尾を目指しつつ、走る。こうした蛇行をくり返してやっと本船航路を横断する。

昔のOBが良く言う、「何故 ディンギーの回航をしないのか。海を知るにはあれが一番」と。しかし現実の東京湾口はそれを許してくれる程すいていない。本船の大型化、快速化、そして数がとに角多い。余程 コンディションに恵まれなければ危険極まりない。かくて今年もディンギー陸送なのである。

陸の風景は昔と違ってビルあり、リゾートマンション

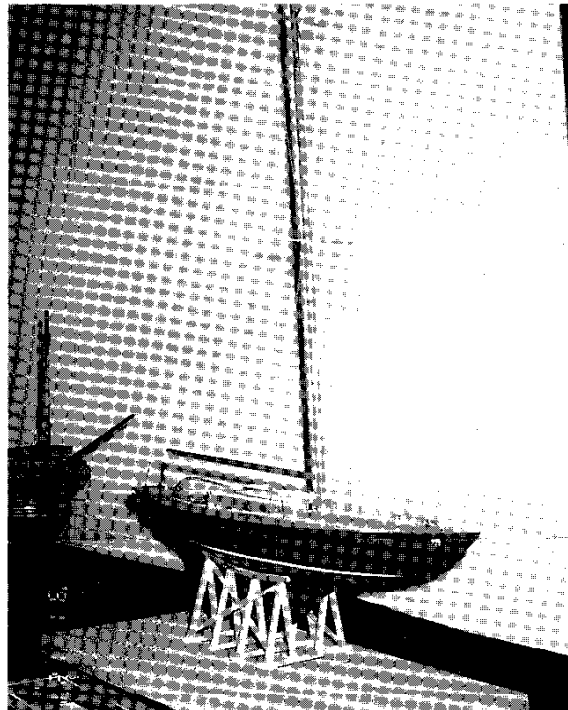
ありで陸の千葉県の地図を見た方が海図より判り易い。沿岸を走る場合チャートの他に新しい分県地図は 必須である。

岩井沖。この漁港も仲々入港の御了解がとりにくい。新しい堤防も完備されている。岸壁に石井講師の迎いの手がふられている。入港 14:30 ほゞ予定通り。短かったが ナイス・クルージングであった。

## 早風のモデルシップ完成

—渡辺 晋O.D.—

渡辺晋先輩は、モデルシップ作りのエキスパートです。神奈川県の高齢者の中でも特にベテランで 展示会のポスターに一人で写っていたりするのはです。



稲龍の模型も、今お手元に残っている物と、もう一隻、大学の総長室にあります。日本丸は、水産庁にあります。

早風の図面・写真・全ての記録と関係者の聞き込みで製作進行中でした。

現物のある稲龍は 見れば良いから楽、無い早風は難しい——とのこと。完成を楽しみにしていたOBは沢山おります。

写真は銀座伊東屋ギャラリーの第16回「ザ・ロープ帆船模型展」に展示された「早風号」。

## 千葉右一君 南海放浪

(90年5月のたより)

カリフォルニアでの4ヵ月はあつという間にすぎて、1月初旬から3月中旬まで滞在したメキシコは丁度ヨットが訪れるシーズンで、アメリカ・カナダからのフネでいっぱい。半年も1年もいる様です。

どこの港でも観光客相手のスポーツフィッシングが盛んです。彼らは得物をご存知の様に釣り上げて(例えば200ポンド位のカジキなど)写真をとってオワリ。魚は土地の人が解体して持ち帰ります。そこで私たちの食事はカジキ・シイラ・マグロ。持ってきたワサビをほとんど使い切ってしまいました。またアメリカ人は余りテキーラを飲まない様です。私が5杯も6杯もおかわりすると店の人は大喜び。一度サービスだといわれどどん呑まされてダウン。例のカジキを釣上げる台に足首を結ばれてカジキならぬJAPONESの逆さブリ/いい見せ物にされました。

メキシコからマーケサスへのセーリングは26日。無風帯もたいしたことなく、殆ど追手からアピー人の快適なものでした。サテナビが言うことを聞かず天測をしたりしてちゃんと目的の島NUKUHIVAに着きました。ほめて下さい。

比較的新しい火山島で環礁もなく1000メートル以上の山がそそり立っています。

島の中を歩いていると住民は家の中から手招きしてバナナ、マンゴー、オレンジ、パパイヤ、パンパムスなどをもいでくれます。私達は何故かダニエルとアントワネットという老夫婦に気に入られ、2週間世話になりました。魚は勿論、家畜の牛や豚、野性の豚・羊・鶏などをいろいろ料理してくれました。久し振りの豪華な食生活、水上生活者とは、とても思えない毎日でした。

今(5月)がポリネシアのクルージングのシーズンでタヒチへ向うヨットがいっぱいです。アメリカ、カナダ、ドイツ、フランス、スイス、オーストリア、ポーランドなど国籍はマチマチ。日本のフネとはメキシコであって以来あっていません。

メキシコ経由でこちらにくるフネにとって「空蟬」は有名だそうです。ヨコハマ・サンフランシスコ90日は皆知っています。余りの遅さにバカにされている様ですが、ノンストップで3ヵ月も……なんて信じられないのが本心の様です。なにせメキシコからの1ヵ月で悲鳴をあげている連中ですから。

連中のフネは42~50フィートが殆ど。レーダー・GPS・マイクロウェーブ・冷蔵庫・ウォーターメーカーなど装備は物凄いものです。オイルタンクはバカデカイですが……それで何年もカップルでクルージングを楽しんでいるみたいです。例えばフロリダからこゝまで6年フネの上だとか、初めは2人で出港したけれど、今は5オ



と3オの子連れになってしまったとか。

あこがれのマーケサスは、考えていた天国そのもので。ずっといたい気がしますが次はツアモツ諸島、そして6月下旬にはタヒチ・パピエテに着こうと思っています。7月中旬までいて、次はモーレア・ボラボラです。やっぱり南の島は良いですよ。誰か夏休みに来ませんか。

これは、90年5月、松島氏に届いた南海からのたよりです。その後ニュージーランド辺りにいるとか。

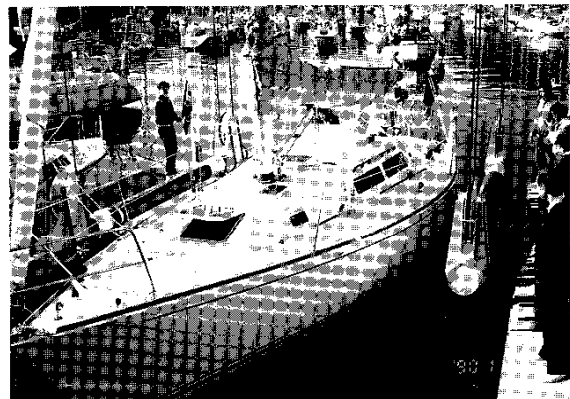
## “げっこう”進水

早稲田ヨットクラブOBの有志の「ドナ ヨット倶楽部」が所有する「げっこう」が、昨年11月24日油壺三崎マリンで進水。

艇種は米国キャロル・マリン社製のフリーズ33(33フィート)。これまで所有していた月光IIIが古くなったため、これを下取に出し新艇を購入した。

最後に入会したのは一悪い事はすぐ知れるのに良い事は仲々伝わらぬとこぼしていた米田晴二広報担当。進水式のパーティーで「俺も入れて呉れ」とゴネる。勿論、一杯入ってご機嫌の先輩会員、全員一致で賛成。その時の米田OBのウレシソーを顔、皆さんにお見せしたい。

これで会員は全部で20名。会員は大勢いるけど年に何回出航するかな?(石田)



## 編集後記

オクスフォードが来たり、早慶戦50回記念があったり……で今年は仲々賑やかだった。理事会もよくケンカがあった。ケンカをしても、また来月やってきて、またケンカをしている。そんなこんなで1990年は暮れた。久保田先輩・天神先輩が逝去。お二人の事で想い出すこと多し謹んで御冥福を祈ります。

12月の忘年理事会で、役員交替の件が内定した。若返り—これは良い事だと意見一致。沢山ご参加下さい。新理事会を激励しよう。

この会報「航跡」についても、新しい感覚をもり込んでもらいたい。新しい筆でやってもらいたい。新理事長よろしく。御愛読ありがとう。読んだ人は会費払ってくださいよ。多謝。(米田)